

令和5年度 第1回 学校関係者評価委員会 議事録

期 日 令和5年6月7日(木) 10時～11時
場 所 姫路福祉保育専門学校 会議室
出席者 吉岡健一委員長・成山文夫委員・田麿みつ子委員・水野直哉委員
下林五枝理事長・前田真吾学校長・三村由佳副校長
(欠席) 豊藏宏委員・栄井睦保育こども学科長・鳥羽由里江介護福祉学科長

議事記録

開会 定数を満たしていることを宣言の後、学校長により開会が宣言された。
理事長並びに委員長の挨拶
理事長より、委員各位へのお礼と学校運営に関する所感が話された。
委員長より、本日の開催趣旨と審議内容についての説明がなされた。

ここより委員長が進行する。

1 経過概要及び資料説明

別紙資料に沿って、校長より説明を行った。

2 本校の運営の質向上における問題点について

委員より下記のような意見が寄せられた。

- ・生徒募集に関しては、少子化や大学の入りやすさ等、専門学校にとって厳しい状況が続くがさらに特徴づけをおこない、改善しなければならない。
- ・姫路福祉保育専門学校の指導は信頼度が高く、それは良い伝統となっている。卒業生からの信頼が篤いので、それはぜひ残して欲しい。
- ・学修成果の面で中途退学者が報告されているが、学校経営という観点からは大きな損失となり、経営を圧迫するものである。できる限り退学者を出さない指導の在り方を一層検討することは、学校の生き残りをかけては避けることはできない問題である。
- ・さらに広い範囲の国から入学してくる留学生が増える予定ということだが、学習面の指導だけでなく、生活全般のサポートが今以上に仕事の量と種類が増えることが予想される。職員が、留学生の国のこと(地勢、歴史、風土、生活習慣等)を学ぶ機会が必要ではないか。一人ひとりの生活背景を知ること、指導や支援内容を工夫することができるのではないか。
- ・留学生を入学させている養成校はいずれも、サポートに苦慮しながら、手をかけて卒業させている。特定技能を採用する施設も増える中、これからもっと学校としての支援の在り方が問われることになっていくだろう。時間割の構成なども、入学時の不安や負担を考慮し、徐々に進めていくという配慮は不可欠である。
- ・コロナ禍による制限が撤廃され、日本に来る留学生の数はかなり増加している。その分、専門学校も学生募集が激戦になっている。学校の指導体制や指導の質等は、留学生同士の情報交換で、広範囲に、しかも速い速度で拡散している。ネガティブな情報が広がれば、募集にダイレクトに影響する状況は強くなっている。
- ・留学生にとって、日本で頼りになるのは教師や職員だけであることを忘れてはいけない。学習指導をする前に、まずは留学生との温かい関係性を構築しなければ、指導段階には移行できない。教師は自分たちの味方だと思わない限り、学習意欲は高まらない。親切的な指導を続けていけば、最終段階では伸びていく。目の前の成績(小テストやレポートなど)の出来にこだわりすぎず、長い目で見て、しっかり支援して、伸ばすのが教師の一番大切な使命であることを徹底している。そのおかげで、50名近くの入学生を維持できている。それができていない学校は、明らかに募集でつまづいている。実にわかりやすい。
- ・日本の若者の気質も、粘り強さに向け、幼稚化しているという声は強くなっており、育成段階から意識していかなければ、この問題は改善の方向には進んで行かないと思われる。

ここで委員長より意見の総括と進行の協力のお礼が述べられ、進行は理事長にもどされた。

3 閉会

理事長よりお礼が述べられた後、閉会された。

第2回学校関係者評価委員会 議事録

期 日 令和5年10月23日(月) 11時30分～13時

場 所 姫路福祉保育専門学校 会議室

出席者 下林理事長 前田校長 三村副校長 成山委員 田靡委員 水野委員 豊藏委員
栄井保育こども学科長 瀧川学生広報課 (欠席) 鳥羽介護福祉学科長

議事

1 学生の在籍移動の報告

在籍異動 介護福祉学科 委託訓練生1名
保育こども学科 委託訓練生1名 本科生1名

2 新卒者及び留学生の募集状況の報告

※赤字は会議資料の訂正内容

(1) 新卒の高校生

AO入試 応募者 0名 指定校推薦 応募者 2名 合格者 2名

(2) 留学生

①国名 ネパール・バングラデシュ・スリランカ・ベトナム・タイ・ミャンマー

②人数 29名(21) 14名(1) 10名(3) 1名 1名 2名

これからの受験予定 8名程度 2名程度 2名 なし 不合格 未定

(3) 日本語学校

①地 域 播磨・神戸・大阪・京都・奈良・倉敷・広島・静岡

②校 数 5校 8校 5校 2校 1校 1校 1校 1校 24校

③合格数 9名 1名 8名 1名 1名 4名 0名 1名 25名

(4) 介護施設

①地 域 播磨・神戸・芦屋・但馬・東京・神奈川

②施設数 17施設 0施設 1施設 1施設 1施設 1施設

③支弁数 34名 2名 1名 1名 1名 39名

3 広報活動

(1) ホームページ、SNSの活用について、更新回数、頻度を増やすとともに、動画も取り入れ魅力を発信していることを報告した。

委員からは、ターゲットを高校生にするなら、高校生により近い年齢層からの発信の方が届きやすいのではないかという意見が出された。

(2) 業者ガイダンスについては、業者を絞り込んだが、高校訪問回数を確保できず新卒の獲得につながらなかった旨を反省点として報告した。

介護人材不足の改善のためにも、高校生へのアプローチの工夫は継続させることが必要という意見が出された。

4 その他意見交換

・介護という仕事の良いイメージ(従事者はやりがいや楽しさを感じていることなど)を伝えることが大切である。介護スタッフの質の低下が顕著なことも大きな問題である。政策としての改善が不可欠であることは揺るぎのない事実であるが、そこだけには期待できそうにもなく、養成校として介護の魅力の発信を続けることが大切である。

・学校名の露出機会をふやすことで、より広い角度からの募集機会をつくる必要がある。

・学生の確保や、さまざまな学生の育成の多様化を鑑み、学校法人としての経営理念やシステムの軸を確固たるものにすることが何よりも大切なことである。厳しくても、法人の維持という観点からは、学科を交えて取り組む姿勢が必要である。

令和5年度 第3回 学校関係者評価委員会 議事録

期 日 令和6年2月21日(水) 10時00分～11時30分

場 所 姫路福祉保育専門学校 会議室

出席者 下林理事長 前田校長 三村副校長 成山委員 田麿委員 水野委員
豊藏委員 栄井保育こども学科長 瀧川学生広報課
(欠席) 吉岡委員長 鳥羽介護福祉学科長

1 開 会

2 理事長挨拶

3 令和5年度自己評価報告

(1) 校長より以下の分析が報告された。

総括として過去3か年で比較すると、一番平均値は高い評価であった。複数の要因から考えなければならぬが、概ね、前向きに進んでいると解釈できると考えている。

個別では、「教育理念・目標」「財務」「法令等の遵守」「社会貢献・地域貢献」の項目の評価が高く、職員に学校方針が浸透してきたと解釈している。また、一番の課題であった健全な財務運営の数値も改善の兆しが伺える。新入予定数が45名程度ということも影響していると判断できる。

一方、「教育活動」の項目に多くの課題を抱えていることが、さらに明確になった。学校としての根幹に関わることであり、令和6年度の最重要課題として改善したい。特に、職員の研修体制と授業評価に力点を置きたい。

(2) 委員より

- ・様々な課題が改善の方向に進んでいることが評価できる。
- ・これまでの学校の取り組みを振り返っても、学生への親身な指導は伝統であり、それが姫路福祉保育専門学校の一の魅力となっていることは間違いない。それをもっと伝えたい。
- ・「学生支援」の①②の支援体制の数値が下がっていることが気になる点である。学生の気質が変わってきていることも考慮すべきではあるが、その変化に対応するという視点が大切ではないか。
※再度、学校として検証した上で、必要なところを改善したい(校長)

4 次年度に向けた改善点について

- ・日本の教育の変質にともない、学校も職場も多くの課題を抱えている現状踏まえて、双方のコミュニケーションを密にすることで、改善に向けた優先順位を考えていく。
- ・保育現場も介護現場も同じで、「できている」学生は自信がなく、「できていない」学生は妙な自信がる。アンバランスを感じる。指導法を考えていく。
- ・多くの留学生とその支弁施設との信頼関係を構築することが育成には必須であり、学校経営にも欠かせない要素である。そこに注力しなければならない。

5 次年度の会議日程について

年間計画が出来次第に連絡することを確認した。

6 閉 会